2004.6.2・入研協セミナー『大学入試の評価』

大学評価の実際と動向

——学生受入に関する評価を中心に

大学評価・学位授与機構　大塚雄作

『大学評価』の実際

◆ 大学評価・学位授与機構の評価

- 国立学校設置法に基づき，
  大学等（大学及び大学共同利用機関）の
  教育研究水準の向上に資するため，
  教育研究活動等の状況について評価を行い，
- その結果について，当該大学等及び
  その設置者に提供するとともに，
  広く社会に公表する。

1

◆評価の目的

- 大学等が競争的環境の中で
  個性が輝く機関として　一層発展するよう
  - □ 教育活動，研究活動，社会貢献活動など大学等の行う諸活動（教育研究活動）について多面的な評価
    - → 評価結果を各大学等にフィードバック
    - → 各大学等の教育研究活動の改善に役立てる。
  - □ 大学等の教育研究活動の多面的な評価結果を
    - → 社会に分かりやすく示す
    - → 広く国民の理解と支持が得られるよう
      支援・促進。　（*Accountability*）

2

- 平成12年度着手から開始
  平成14年度着手分まで
  3年度分の試行的評価を終了
- 3区分による評価
  分野別教育評価
  分野別研究評価
  全学テーマ別評価
- 評価報告書として社会に公表
  *Web*で参照可能　http://www.niad.ac.jp/

3

◆激辛　国立大評価（2002.3.23）

- 最初の評価結果の新聞報道
  - □産経新聞：京大医学部に「大幅な改善必要」
  - □読売新聞：激辛　国立大学評価
    学生の多くを面接もせずに
    学力だけで入学させている
    最低ランク　京大医学部
  - □毎日新聞：京大さん医者にするなら人を見て
    医学部入試「最低」に

4

◆平成12年度着手教育評価

- 評価項目
  ①アドミッション・ポリシー（学生受入方針）
  ②教育内容面での取組
  ③教育方法及び成績評価面での取組
  ④教育の達成状況
  ⑤学生に対する支援
  ⑥教育の質の向上及び改善のためのシステム

Cf. 平成13年度着手より
「アドミッション・ポリシー」の項目は
「教育の実施体制」の項目の一要素に

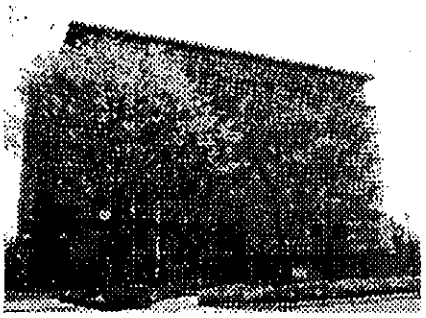
5

◆評価結果の表し方

- 2つの補完的な評価結果
  - ①4種類の「水準をわかりやすく示す記述」
    - 状況の中心的な位置
  - ②特記すべき点　（優れた点・改善すべき点 *etc.*）
    - 個々の観点の状況や活動等のバラエティの記述
- 4種類の水準
  - 「十分に貢献」
  - 「おおむね貢献　改善の余地」
  - 「ある程度貢献　改善の必要」
  - 「貢献しておらず　大幅改善の必要」
  - → 京大医学部「アドミッション・ポリシー」の水準表示

6

機構の評価の特徴



7

◆ 目的及び目標に即した評価

- 機構の実施する評価は，大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう，

  大学等の設定する「目的」及び「目標」に即して

  行います。

  - □大学等の行う教育研究活動が
    「目的」及び「目標」の実現に貢献するものであるか，
    また，当該活動の結果がそれを達成しているかを評価。
  - □「目的」「目標」は評価しない・・・個性化

8

◆ 自己評価に基づく評価

- 機構の評価は
  - □大学等の教育研究活動の***個性化***
  - □質的充実に向けた***主体的***な取組

  を支援・促進

  → 機構の示す評価の枠組みに基づき，
  対象機関（組織）が自ら評価
- 評価の対象時期
  大学等の現在の活動状況が評価対象
  これまでの状況（原則過去5年間）の分析

  → 自己評価書として提出

9

◆ 評価の観点例　（分野別教育評価：アドミッション・ポリシー項目）

【評価の内容】

- 教育目的及び目標を達成するためには，
  教育の質的向上だけでなく，その取組の効果が期待できる
  （医師や研究者としての十分な能力を持ちつつ，）
  明確な目的意識や適性を持った
  学生の確保が重要
- 求める学生像・学生募集方法・入試の在り方　等の
  アドミッション・ポリシーが
  - □明確な形で策定されているか
  - □学内外に公表・周知されているか
  - □方針に従った学生受入の方策が適切に講じられているか
- 入試が全学規模の場合も，学部の対応状況を評価

10

◆ アドミッション・ポリシーの明確な策定

- 教育目的及び目標を実現できる内容となっているか
- 求める学生像や学習経験,学生募集方法,入試の在り方等の必要事項は適切に盛り込まれているか
- （医師や研究者として十分な能力を持った，）
  明確な目的意識や適性を有する者を
  受入れるような内容となっているか
- 学部，研究科全体としてのコンセンサスを得たものとなっているか

11

◆ アドミッション・ポリシーの学内外への周知・公表

・学内への周知のために適切な方策を講じているか

・教職員等が十分認識しているか

・学外への公表のために適切な方策を講じているか

・受験者等が十分認識しているか

12

◆ アドミッション・ポリシーに従った学生受入方策

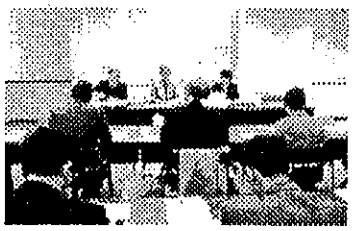
・学生受入方策の内容は,アドミッション・ポリシーに沿ったものとなっているか

・推薦入学, 編入学, 特別選抜等の多様な入学者選抜方法の検討, 導入に取り組んでいるか

・学生受入方策を実施するための学内の体制は十分なものとなっているかなど

13

分野別教育評価(医学系)の評価結果の全体的特徴



14

◆ 目的及び目標（医学系・学部）

■ 教育目的
- □ 広い医学知識と高い臨床技能を持つ医師
- □ 豊かな人間性を有する医師
- □ 地域医療に貢献する医師の養成

■ 教育目標
- □ 多様な入学者選抜方法
- □ 医学医療に対する動機付け
- □ 生命科学の発展に寄与できる思考能力と技能の応用力
- □ 医療における地域特性への理解
- □ 社会に貢献する姿勢と能力　　など

15

◆ 評価結果の特徴（医学系・大学別）

■ 秋田大学: 地域医療に貢献する医師の養成を目的として
多様な入学者選抜方法を取り入れ

■ 群馬大学: 優秀な学生の確保のため
推薦入学・学士入学制度など多様な入試方法を先駆けて導入

■ 岐阜大学: 問題解決能力を養うため
我が国で先駆けてテュトーリアル教育を導入

■ 京都大学: 伝統的な自主性尊重教育により
医学界のリーダー養成をめざす

■ 高知医科大学: 豊かな人間性を有する医師を養成するため
KMSATと呼ばれる適性検査を入試時に施行

■ 長崎大学: 我が国最古の医学校として
建学の精神である全人教育と優れた教育プログラム

16

◆ アドミッションポリシーの項目別評価結果（医学系・学部）

■ 特色ある取組・優れた点
- □ 特色あるアドミッション・ポリシーの策定
- □ 多様な入学者選抜方法の実施又は選抜方法の工夫
- □ その学外への公表
- □ 大学説明会, オープンキャンパスの開催
- □ 知的資質のある学生の確保
- □ 様々な入学試験により入学した学生の追跡調査の実施

■ 改善を要する点・問題点等
- □ 明確なアドミッション・ポリシーの策定
- □ その学内外への周知・公表の程度
- □ 多様な入学者選抜の充実の必要性
- □ 入学した学生の追跡調査の実施及び改善の必要性

17

◆ アドミッション・ポリシーの項目別評価の水準判定（医学系）

	学部	研究科
目的目標の達成に十分貢献	3	1
おおむね貢献しているも改善の余地	2	2
ある程度貢献しているが改善の必要	0	3
貢献しておらず大幅な改善の必要	1	0

18

京都大学医学部の教育評価

■ 教育の目的

□「*優れた臨床医及び医学研究者を養成する*」

（京都大学医学教育ワークショップでの確認事項）

- 臨床医として
  高度な専門的な医学知識を持つこと（は もちろん）
  幅広い教養を持った感性豊かな人間性
  人間性への深い洞察力　社会ルールについての理解
  論理的思考力　コミュニケーション能力
  問題提起能力や問題解決能力の資質
- 医学研究者として
  独創的・創造的研究により医学の先端を切り開き
  国際レベルでのリーダーシップ

19

◆京大医学部のアドミッション・ポリシーに関わる「目標」

■ 先進的な医学，医療の教育を受容する能力を持つ学生の選抜

□ 大学入試センター試験の成績
　＋ 前期，後期の入学試験の成績
　定員は前期90名，後期10名

□ 知育偏重による偏りを防ぎ
　知情意に優れた学生を選別する目的
　→ 後期入学試験の中に論文試験

20

◆京都大学医学部のアドミッション・ポリシーの評価結果

■ 特色ある取組・優れた点

□ 伝統的に高学力の学生が入学（優れた点）
　→ 高度な医学教育を受ける知的資質のある学生確保

□ 知情意に優れた学生を選抜
　→ 後期試験で配点が大きい論文試験

□ 平成15年度より，後期試験で生物を必修科目に
（特色ある取組）

□ 学生受入についてのフォローアップスタディ
　→ 平成11～13年度卒業生のデータベース作成

21

◆京都大学医学部のアドミッション・ポリシーの評価結果

■ 改善を要する点・問題点等

□ 学生受入方針が明確な形で策定されていない
　学部内のコンセンサスも必ずしも得られていない
　入学動機が不明確な学生の存在（アンケート・訪問調査の面接）

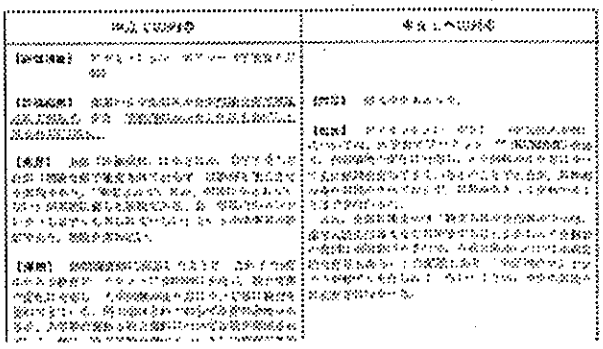
□ 目的『優れた臨床医及び医学研究者を養成する』が
　学生募集要項などで，周知・公表されていない

□ 90%を占める前期入学者（学業成績のみの選抜）
　人間性等の育成にそぐわない学生もいる

→ 面接の導入が望まれる
（訪問調査時の学外関係者からの意見）

22

◆意見の申立て アドミッション・ポリシーの明確な策定



23

◆意見の申立て　面接の導入

24

◆意見の申立て　教育目標と選抜のギャップ

25

◆評価のインパクト

- 評価結果の一人歩き
- メタ評価：　評価の評価
  評価結果は適切に導かれたのか？
- 大学の主体的改善
  医学部入試に　全員　「面接」　導入
  アドミッション・ポリシーの明示（*Web*等）
  → 評価は有効に機能した（？）

26

◆評価とは

- 「評価（*feedback*）情報」を自ら価値づけ、
  次の活動を適切に選択（*feedfoward*）していくこと
- プロンプタ*prompter*としての評価　*vs.*
  メジャー—*measure*としての評価
- 主観的世界観の交流　（異なる価値観の交錯）
  vs.
  客観的数量化　（ある価値に基づく競争）

→ *Authentic Assessment*

27

◆機関別認証評価

- 本年度より開始される新しい評価
- 機関別認証評価の目的
  - □大学としての質の保証
  - □大学の教育研究活動の改善に資する
  - □社会にわかりやすく公表（*Accountability*）
- 「大学評価基準」を満たしているかどうかを評価

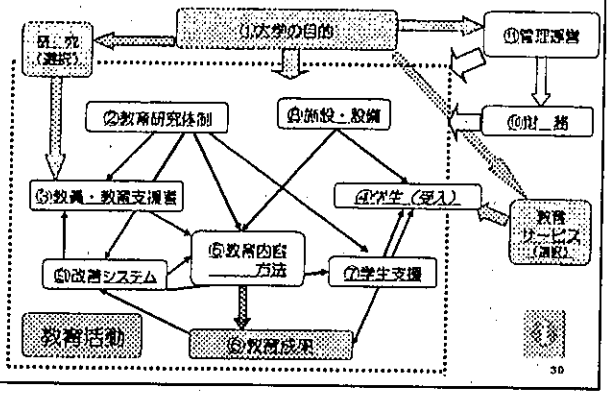
28

◆新しい評価結果の記述

- 「大学評価基準」を満たしているかどうかの評価
  一つの「基準」でも満たさないものがあると
  大学として不適格とみなされる　→　質の保証
- 「優れている点」「改善すべき点」の具体的指摘
  改善に資する評価情報の提供
- 社会にわかりやすい記述　→　*Accountability*

29

◆新しい機関別認証評価の基準案



30

大学評価基準（機関別認証評価）（案）

■ 基準4　学生の受入

4-1. 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針が記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、公表されていること。

4-2. アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜が実施され、機能していること。

4-3. 実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

31

学生の受入——基本的な観点

4-1-① 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、公表、周知されているか。

4-2-① アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実質的に機能しているか。

4-2-② アドミッション・ポリシーにおいて、留学生、社会人、編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

4-2-③ 実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

4-2-④ アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

4-3-① 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

32

◆アドミッション・ポリシー評価の蓄積に向けて

■ 人材育成のモデルの適切性——セオリー評価

■ 選抜方法の適切性——プロセス評価

■ 選抜方法の効果の確認——アウトカム・インパクト評価

→ 自らの教育目的の特徴に応じて
その達成状況を
的確な *根拠資料・データ（質的データを含む）*
により *社会にわかりやすく*　*自己表現*

33

◆改善志向の評価文化の醸成

■「評価」は受け身的に「評価される」のを待っていればいいというものではない

□自己表現 → 社会への発信

■「評価」は客観的に測定されればよいというものではない

□「評価者」の主観的見えを積極的に利用

→「評価者」と「被評価者」の協同作業

Cf. 参加（協同）型評価

34

● アドミッション・ポリシーに関わる問題

・大学の教育全体に及ぶ大きな問題

・大規模かつ体系的に行われる「選抜」という評価機会を大学教育特有の「評価」を模索する足がかりに

・この新しい課題に
多くの研究の深化と蓄積
＝ 入試をフィールドにする新たな
Academic Learning Community の形成を

了

35